

人権ってなあに

今月の人権

女性・子ども・高齢者・しょうがい者
同和問題・外国人・患者



ふれあいのまち 差別のないまち

9月 は同和問題啓発強調月間

県や市町では、同和問題についての正しい理解と認識を深め、差別の解消に向けた取り組みを進めています。

同和問題の解決に向けて

同和問題は、生まれたところや住んでいるところによって様々な差別を受けるという日本固有の人権問題です。これまでの取り組みによって、生活環境は改善され、表面的な差別は少なくなってきましたが、結婚や就職などの場面で、誤った認識や偏見による差別は今なお根強く残っています。

差別は人ごとだと思いませんか

このような差別を一日も早く解決するためには、同和問題について正しく学ぶことが必要です。

「同和問題を取り上げることは、部落差別のことを知らない人に、差別を意識させてしまうことになるから、触れないほうがいい」と言う人がいます。このような考え方は、差別を許していることとなります。

また、「自分には差別意識はないのだけれど」とか、「自分ひとりが反対しても仕方ない」ということを言う人がいます。果たしてそれは差別をしていないということなのでしょう。社会の差別意識を残しているのは、私たち自身の意識の持ち方です。他の人のせいにはしているのは、差別していることと同じです。

一人ひとりが自分自身の問題としてとらえ、偏見や世間体にとらわれずに、正しく判断し、自分の意思で行動することが大切です。

人権尊重啓発事業

街頭啓発

9月1日（金）午後4時から、ジャスコ長浜店で。
は～とふるフェスタ 男と女のパートナーフォーラム

9月3日（日）午後1時30分から、市民交流センターで。

【講師】小林由紀子氏（ドラマプロデューサー）

【演題】「5年後の夢をかなえる“自分育て”」

人権尊重啓発作品展

9月25日（月）～10月16日（月）に、市役所本館 玄関ホールで。市内の小・中学生が授業や夏休みに作成した人権啓発のポスター・標語・書写等の作品展。

お問い合わせは、市人権施策推進課 ☎6 5 6 0 へ。

じんけんフェスタしが2006

9月10日（日）午前10時～午後4時30分に、近江八幡市文化会館及び近江八幡市役所前駐車場で。

【講演】松居一代さん（女優・エッセイスト）

【シンポジウム】「人が輝くまちづくりをめざして」

コーディネーター 大谷昭宏さん（ジャーナリスト）

パネラー 松居一代さん・安藤仁介さん

【ふれあいコンサート】白鳥英美子さん（トワエモア）ほか

お問い合わせは、県人権施策推進課（☎077-528-3533）へ。くわしくは、県広報誌をご覧ください。

人権尊重啓発作品

平成17年度の人権尊重啓発入選作品です。

南郷里小学校3年（現4年）
片山知恵さん



北郷里小学校4年（現5年）
平野仁菜さん



長浜南小学校3年（現4年）
中川綾華さん



食べることの機能回復に連携

—摂食・嚥下障害に専門医療チーム—

市立長浜病院では、3年前から、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、栄養科、病棟の看護師および主治医などで専門医療チームをつくり、摂食・嚥下(食べ物を噛み・飲みこむこと)障害に対して、連携した治療を行っています。

摂食・嚥下障害って

脳梗塞や脳出血、神経疾患、術後等で、食べ物を噛み、飲みこむ機能が低下した状態をいいます。

治療法は

機能が低下している部分を運動させたり、刺激を与えたりして、機能を回復させるほか、食べる姿勢や食事を工夫するなどが考えられます。患者様によっては、“胃ろう”など経管栄養(食べ物を管で直接、胃に入れる)の方法をとることもあります。

専門医療チームではどんなことを

通常の治療では対応が難しい重症の方を対象に、症状や検査結果などから、患者様にとって最善の対処ができるよう、それぞれの立場で意見を出し合い、治療につなげています。



専門医療チームのメリットー連携した治療をー

食べることの機能障害といっても、対処方法はさまざまです。どこに原因があり、改善するにはどうしたらいいか、改善できない場合、少しでも普段どおりの生活ができるようにするにはどうしたらいいのかを考え、実践するには、一つの科では限界があります。各科での専門的な検査や治療に加え、どんな食事にすると食べやすくなるか、どんな訓練を行った方がいいか、ふだん接する病棟の看護師はどんなことを心がければよいかを、チーム内で一緒に考えることで、より効果のある治療を行うことができます。

今後の課題ー継続した療養環境をー

いくらか機能が回復した患者様でも、退院後の生活環境から、状態が悪化してしまう事例が多くあります。継続した治療・療養を行うには、ご家族をはじめ、地域の開業医や行政、介護サービスなどと連携することが必要で、今後は地域とどう連携していくかが課題だと考えています。

漢方薬をおためしく下さい



市立びわ診療所長
北 岸 尚 先生

急に足がつって、ふくらはぎの筋肉が痛くなることを「こむらがえり」や「からすがい」といいます。こむらがえりには、漢方薬の「芍薬甘草湯」

が効き、その粉薬を、できればお湯に混ぜて飲むと早く楽になります。こむらがえりになりそうな兆しがあるときに飲んでみてもかまいません。

また芍薬甘草湯は、生理痛や腰や肩、下腹の慢性的の痛みにも有効ですので、一度ご相談ください。

そのほか、びわ診療所では、冷え性や肩こり、アレルギー性鼻炎、軽症高血圧、胸やけ、乾燥肌、便秘、低血圧などに漢方薬を処方しています。

また、これらの漢方薬についての相談や説明を、毎週金曜日の午後2時から予約制で行っています。前立腺、肝臓、腎臓の漢方治療は行っていません。お問い合わせは、びわ診療所(☎73010)へ。